

「えんげき」の威力。



校長 竹内 明子

本校の「えんげき」は、キャリア教育の一貫として「コミュニケーション能力の育成」をねらいとしています。それは、本校の保護者の皆様にはご承知いただいているとおりです。

3～6人程度の小グループごとに「えんげき」を一から話し合って創り出すことは、大変難しいことです。では、劇のシナリオもないのに、子どもたちはどのようにして完成までたどり着くのか、そこに《富士見丘マジック》があります。

1 学期に、本校の全教員は演劇のプロから「えんげき」の基本を学びます。それを、子どもたちの指導に生かすのはもちろんですが、更なる秘策として、本校には「えんげきノート」という、1年生の時に子ども一人ひとりに渡す素晴らしい冊子があるのです。「えんげき」学習の毎回の内容や、自分が考えたり工夫したりしたことを、六年間分綴することができます。えんげきの練習中に必要なときは、冊子を開いて過去の記録を振り返ることもできるので、一人ひとりのポートフォリオと言ってもよいでしょう。



子どもたちはこの冊子を有効に活用しながら、グループのメンバーと意見を交わし合い、時に互いの思いをぶつけながら、一つのげきを仕上げていきます。他校から異動してきたばかりの教員も、このポートフォリオがあれば、過去に子どもたちがどのように取り組んできたのかがわかりますし、えんげきの指導についての具体的イメージも湧きやすいという利点もあり、いいことづくめです。発表会を終えたあとの振り返り(感想)ページもあります。

先日の12月9日(土)は、1・2・4年生の「えんげき発表会」でしたので、一番上学年である4年生の「えんげきノート」を先ほど拝借し、子どもたちの振り返り(感想)を読んでみました。一人ひとりのA4サイズの1ページに、どの子もびっしりと書いていました。

ふじみがおか

杉並区立富士見丘小学校
Fujimigaoka
Elementary school



校長 竹内 明子

令和6年1月号

令和6年1月9日発行



「げきをつくらう」の学習を振り返って(4年生抜粋)

＊「最初はみんなの気が合わなかったけれど、練習するとぐんぐん合ってきたし、友達にもなれたから、げきって楽しいなと思いました。」

(人間関係形成能力・コミュニケーション能力)

＊「話し合いの時、ぼくは自分の意見を言えるようになりました。それを今後の生活に生かしていきたいです。」

(課題対応能力)

＊「練習やリハーサルの時、互いに見せ合うのは恥ずかしかったけれど、本番を終えた今では恥ずかしがっていた自分が嘘みたいでびっくりしました。」

(自信・自己理解・自己肯定)



上記のカッコ内に示したように、げきの創作を通して、将来生きていくために必要な大切な力が育っているのがわかります。これは4年生のものですが、このような記録が全ての学年で「えんげきノート」にしたためられ、六年間蓄積したら、子どもは自分自身の成長を感じることができるようし、それは大きな自信となって、人生の次の扉を笑顔で押し開けることができる力となるのではないのでしょうか。それを、本校の「えんげきの威力」、と私は考えています。

お子さんがいずれ6年生になり、保護者の皆さんに卒業公演を観る日が訪れた時、その成長ぶりに驚かされることでしょう。1年生時から毎年見届けてきた「えんげき発表会」の、お子さんの姿の変遷を思い出と共に辿ることになるからです。

来る2月17日(土)は、3年生と5年生のえんげき発表会です。また、3月2日(土)には6年生の卒業公演が予定されています。楽しみにご来校ください。

心よりお待ち申し上げております。